

環境部会

親子で集まれ 野鳥観察塾

環7-環 吉田 忠史

平成16年2月15日(日)10時から15時までしあわせの村自然公園は真冬にしては穏やかな天気恵まれ、貴重な野鳥の観察とおいしい“トン汁”で体を温めながらの楽しい1日を過ごすことができた。

参加者は16家族(子供17人、大人20人)で、グループ“わ”本部スタッフおよび在校生と「野鳥グループ」のメンバーが講師役を務めた。

午前中は野外活動センター「あおぞら」でパワー・ポイントによる映像を見ながら留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥等々の一般的な説明を行い、野鳥の食べ物、生息場所等々について詳細に解説をした。野鳥が森の木に付く虫を食べることによって木々の生長を助け、また実を食してその種を遠くに運び、新たな芽を育む役目をしていることを子供達に教えた。

実際屋外で観察するために、双眼鏡の扱い方、野鳥の特徴を覚えて識別する方法等についても詳しく説明



堂坊池付近でベニマシコを観察する親子

した。

野鳥はまた種類によって生活場所が異なり、それぞれが縄張りを確保しながら仲良く生きている。例えばウグイスは藪の中で冬はチェッ・チェッと鳴き、春になるとホーホケキョと美しい声で鳴く。夏鳥のオオルリは高い木の上で天から二物を与えられた美しい声で鳴く。

この日しあわせの村内で観察できた野鳥は合計25種類で、冬鳥のベニマシコ、ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、アオジ等、留鳥のコゲ

ラ、カワラヒワ、セグロセキレイ、キセキレイ、水鳥のマガモ、コガモ、カイツブリ、国内の水鳥で一番大きいアオサギ等が観察され、双眼鏡を通して見る野鳥の美しさに皆大喜びでした。

今後しあわせの村と協力し、子供達や障害者の方を含めた多くの市民が訪れやすい自然環境ゾーンとして市民レクリエーションと結びつけた「野鳥観察」の場に整備されることが望まれる。



探鳥の前に野鳥の説明を熱心に聞く参加者